



今井小だより

横浜市立今井小学校
令和5年11月30日
学校だより12月号

学校教育目標：かがやいている子 「自分大好き！今井大好き！」

「雑草という草はない」

学校長 松永 史郎

今年の4月から9月末まで、NHKテレビで朝の連続ドラマ「らんまん」が放映されていました。仕事をするようになってからはなかなかこの時間のテレビ番組を見ることはありませんでしたが、家族が録画して見始めたのを機に、自分も帰宅してから視聴するようになり、いつの間にかささやかな毎日の楽しみになっていました。

ご存じの方も多いと思いますが、「らんまん」の主人公は、「日本の植物分類学の父」と呼ばれる牧野富太郎博士がモデルになっています。ドラマなので、史実だけではなく、フィクションや演出も多分に加わっていますが、俳優の神木隆之介さんが演じる生き生きと元気いっぱいの牧野博士、そして博士を取り巻く人々の、時にはコミカルで時にはしみりとさせられる名演技から、私も毎日元気をもらっていました。(終了後しばらくは「らんまんロス」に……。)

「雑草という草はない」 この言葉は、その牧野富太郎博士の名言として後世に伝えられています。作家の山本周五郎氏が雑誌記者だった1928年(昭和3年)頃に、牧野博士にインタビューをした際に、

「世の中に“雑草”という草は無い。どんな草にだって、ちゃんと名前がついている。」という話をされたというエピソードが伝えられているようです。当時、農村では農薬が普及し始め、雑草を「退治」すれば生産性を上げられるという考えが世の中に広まっていた。植物をこよなく愛する牧野博士は、雑草が悪役となり、植物の多様性が縮減することに危機感を持っていたようで、ことある機会に「雑草という草はない」という考えを広めていたと言われています。

さて、この「雑草という草はない」という言葉、ドラマの中では、植物のことだけに留まらず、「人」のことにも当てはめて使われていました。すなわち、「人には誰にでも一人ひとりちゃんと名前があり、存在を軽んじていい人など一人もいない。」という意味で。

「らんまん」の主人公は破天荒なところもありましたが、魅力を感じたのは、このように優しさあふれる人間性が描かれていたからだと思っています。

12月4日から10日までは人権週間です。今井小学校でも、この機会を使ってさまざまな取組を行います。この期間の取組を通して、子どもたち一人ひとりが、周りの人への優しさを持ち、互いを大切にできる心づかいができるように、さらに成長することを願っています。